

仮称

文化の森

準備だより ⑧

発掘調査が始まっています!! ～尾崎遺跡～

新緑の輝く季節となった5月11日以来、(仮)文化の森整備計画に伴い、ここ尾崎遺跡の発掘調査が進められています。この場所は、木曾川から階段状に地形が高くなっていく最も高い台地であり、その丘の上からは太田や古井の市街地を見下ろすことができます。

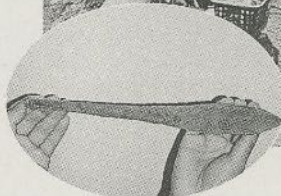
さて、これまでの調査結果から様々なことが判明しつつあります。ここに多くの人々が住んだのは古墳時代～奈良時代にかけてであり、60数棟の家の跡(*)が発見されています。また古墳時代後期には、鉄を生産する鍛冶工房もありました。鉄製の矢じりやナイフ、大工道具として使われたであろうヤリガンナなどといった鉄製品が遺跡から多く出土しています。

これまでに竪穴式住居が5棟、弥生時代から古墳時代にかけて土器と共に発見され、その時期などの検討を現在進めています。今回調査を行う地点には、「生活体験館」という施設が建設される予定です。ここは、昭和30年代の養蚕農家を忠実に再現したもので、板の間やクドも備えられておます。

(*) この頃の家の形は、いわゆる竪穴式住居と呼ばれるもので地面に穴を掘りくぼめて床を作り、壁際には石で組んだかまどが備えられていたようです。



発掘風景▲



ヤリガンナ



▲竪穴式住居の輪郭が見えてきました

博物館建設のため、現在いろいろな資料を収集しています。文化課(文化会館内/■内四〇八)まで情報をお寄せください。

- 岡本一平自筆原稿など16点
(大畑守道さん/本郷町)
- 家庭用足袋型紙など6点
(兼松豊志さん/本郷町)
- 下駄など七点
(伊佐治吉雄さん/本郷町)
- 木製冷蔵庫
(斎藤基生さん/多治見市)
- 天目茶碗破片など九点
(桑原庄助さん/本郷町)



- シェークスピア全集六冊
(鎌谷功さん/御嵩町)

今回は、次の方から貴重な資料を寄贈いただきました。
(平成十一年六月分)